

令和元年度第1回北本市立小・中学校通学区域審議会 協議のまとめ

1 栄小学校の児童数に関する意見

- (1) 北本市内の若い世代は長く団地には住まないことが多い。
- (2) 公団地域は高齢者率が高い。
- (3) 栄小はいい学校であるが、保護者は児童数で考えてしまうため、これからも公団地域の児童は減るであろう。
- (4) 今年度入学する予定だった未就学児の保護者に入学を勧めたが、転出してしまった。
- (5) 様々な団体が若年層の転出防止について策を講じてきたが、結果として今の状態である。
- (6) 入学前の保護者の感覚だと、保護者の友人関係で学校を決めたがる傾向にある。影響力のある保護者が栄小を選択することでもない限り、この動きは止まりにくいのではないか。
- (7) 6年後の32名は10名ぐらいになってもおかしくない。
- (8) 学校や地域の力だけでは止めることは難しく、簡単に転出や指定校を変更しようとする現状がある。

2 適正化の観点からの意見

- (1) 数年前から新入生が3名とわかっていたならば、先に手を打つことはできなかったのか。
 - 令和元年度は適正規模の基準を作ろうとした。平成30年度当初の見込みでは平成31年度（令和元年度）の入学予定児童数は9名であった。9名には危機感を覚えたが、複式学級にもならず、平成30年度で基本方針を定め、平成31年度以後に検討するものとした。しかし、その後、1月で5名、3月で4名となった。3名は、想像を超えていた。
- (2) スクールバスなどで、他校へ通うなどの案はどうか。
- (3) 栄小で少なくなった子供たちをどうするかを考えると、他校との吸収合併や西中学校の施設内に小中一貫という形で栄小を残すことも致し方ないのではないか。
- (4) 数字を見た時には、栄小における集団教育はできないであろうと考えたが、いきなり適正規模に照らして、統廃合や栄小の児童を居住地で他校に振り分けるといったことは、単純にできない心情も理解できる。
- (5) できれば栄小を残してもらいたい気持ちもある。もし、統廃合を考えるのであれば、早く決めて欲しいという思いもある。

3 児童の教育を重視した意見

- (1) 今後、子供たちの教育をどうするかが重要である。
- (2) 今の1年生（3人）が学校生活に満足しているのか。
- (3) 保護者は、どこの学校であれば満足なのかを考えていかなければならない。
- (4) 南小・西小・石戸小が通える範囲にある。
- (5) 栄小を残す・残さないでなく、3人の新入生が小学生と言う味わいをもっているのか。
- (6) 通いやすい学校で能力が発揮できるところへ転校できるのか話し合ったほうが建設的である。
- (7) 北本団地に住んでいても、市内の他の児童と同じような学校生活を送れることが大切なのではないか。

4 保護者の視点からの意見

- (1) 将来的に子供が中学生になった時に、大人数の学校がよかったり、部活動を選べたりできたほうがよいので、大きな学校へ通わせたいと思うのではないか。
- (2) 引っ越しの際に、本音はなかなか言ってもらえないが、他校の新入児童数と比べると不公平感があるとの意見を聞いた。
- (3) 栄小を守りたいという気持ちもあるので、子供も保護者も地域も先生方も納得できる着地点があればよい。私も保護者の方と同じような考えである。

5 通学区域の見直しに関する意見

- (1) 通学区域の見直しとして、南小・西小・石戸小へ通うということはあるか。
- (2) 栄小学校の通学区域を変えるという場合でも、コミュニティとのつながりはそのままに統合してもらえればと思う。